第8課　器　具

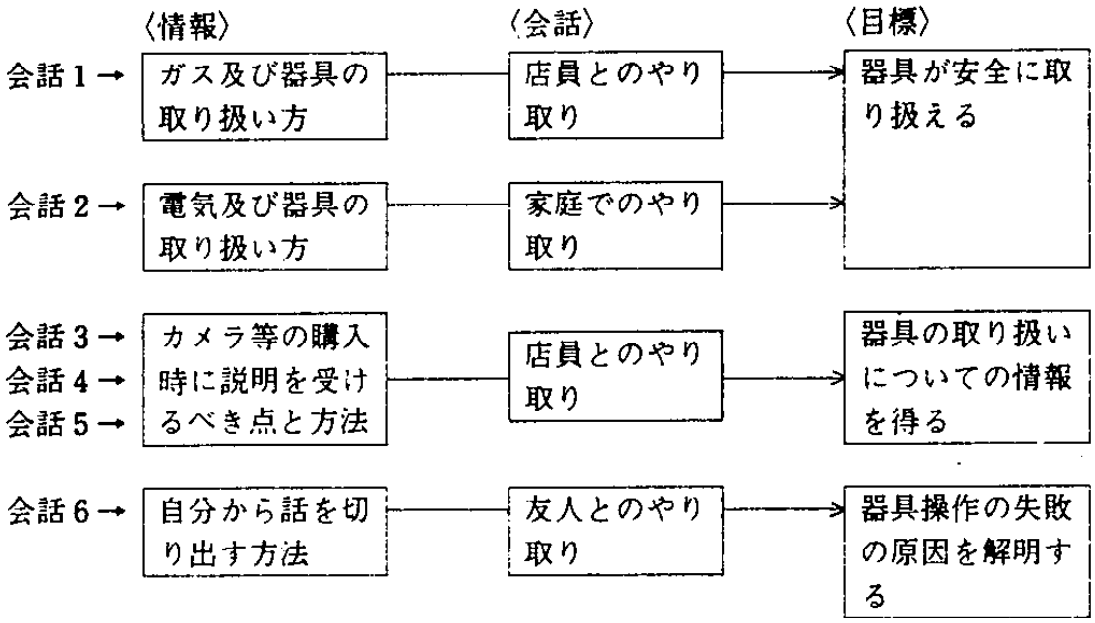
● この課の目標と重点

① 器具が正しく安全に取り扱える。

② 器具の取り扱い法について、情報を得たり、確認したりできる。

③ 器具がうまく取り扱えなかったとき、それを他人に伝えて、アドバイスを得ることができる。

● この課の構成と各会話の関連



〔会話－1〕ガス湯沸器の使い方

行動達成目標	
	① ガス湯沸器の取り扱いについての説明・指示が正確に理解できる。 ② ガス器具が安全に使える。
知識	ガス器具の正しい取り扱い方を知り、事故防止の方法を理解する。
表	① 湯沸器の使い方の指示・説明の内容が正確に理解できる。 → （湯沸器を使う）ときは、（必ず換気扇を回し）てください。 （元栓を開け）てから、（このつまみを回し）てください。

現		ゆっくり回してください。 （ゆっくり回し）てください。　そうすると、（口火がつき）ます（ね）。 （口火がつい）たら、（こうする）と（お湯が出）ます。 （消す）ときは、（今と反対をやれ）ばいいんです。
	② あいづちや確認が適切に行える。	→ はい。 （右へ回す）んですね。 （あ、こっちのつまみを回す）んですね。

● 指導の前に

ガス器具は、日本人の日常生活に欠かせない便利なものだが、取り扱いを誤ると、重大な事故にもなりかねない。多くの学習者が帰国以来、ガス器具は日常使っていると思われる。しかし、一般の日本人なら使用上の常識とされていることだというので、伝えられず、そのため、誤った使い方がされていることもある。ある帰国者は回りの者から繰り返し元栓を締めるように言われていたため元栓だけを締めていた。これでも火は消えるのでよいと思っていたという。しかし、これなども別の人が元栓だけを開ければ、大きな事故につながる。ここでの学習を通して、ガス器具を正しく安全に使用するための知識を周りの人に求められるよう指導をしたい。

特に、新しくガス器具を購入して、その使用法を説明してもらうとき、その要点を正しく理解できるようにしたい。

● 準備

① ガス事故に関する新聞記事などがあれば、用意しておく。

② 給湯室などにガス湯沸器などがあれば、そこを学習の場として使用できるように許可を取っておく。

③ ガスコンロ、ガスストーブ、ガス湯沸器などのガス器具の絵または写真を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① ガス器具の正しい使い方について話し合う

ガス事故に関する新聞記事などを見せて、学習者がガス事故を知っているか聞いてみる。また、ガス事故の原因にはどのようなものがあるか聞いて、話させる。また、このような事故を防止するには、どのようなことに心掛けなければならないか話し合う。また、教授者からガス器具の取り扱いを誤るとガス爆発、火災、ガス中毒、酸素欠乏などの大事故につながることを話す。事故防止には、コックの開け閉め、換気、ガスに合った器具の使用、器具の管理など注意すべき点があることを話す。また、ガス臭かったときどうするかなども知らせておきたい。これらは、実際の器具などを見たり、動かしたりして行いたい。

＊導入で新聞記事を見せたとき、学習者が記事の詳しい読み取りを始めないように注意する。漢字を拾って大体の感じがとらえられればよいと指示しておく。

【2】展開

① 場面の関連語彙・表現の練習をする

ガス湯沸器の実物や絵等で器具の部分の名称（元栓／つまみ／口火／窓／ホース等）を確認した後、操作を表す表現（開ける／右へ回す／ゆっくり回す／つく／つける／出る／消す等）を導入する。

＊レベルｉの学習者は部分部分に区切って、繰り返せればよい。また、中国語訳のフラッシュカードを示したり、板書したりして学習者がどういう意味の表現を練習しているのか知らせてもよい。

② 会話の内容理解の確認をする

〔会話－１〕のテープを、本文・中国語訳とも通して聞かせて、次のような質問をする。

例
- だれとだれが、話していますか。
- どこで、話していますか。
- ガス会社の人は、何をしに来ましたか。
- この湯沸器を使うとき、はじめに何をしますか。
- 次に何をしますか。
- 消すときは、どうしますか。

③ 「（湯沸器を使う）ときは、（必ず換気扇を回し）てください」の練習をする

次のア～ウの順で行うとよい。

ア　「湯沸器を使うときは、必ず換気扇を回してください」が暗唱できるようになるまで教授者の後についてリピート練習をする。

イ　「ガスコンロ」「ガスストーブ」等の器具名、「換気する」などの表現の導入をした後、「ガスコンロを使うときは、換気をしてください」「ガスストーブを使うときは、ときどき窓を開けてください」などガス器具の使用上の注意を示し文の意味の理解を確認し、発話練習をする。

ウ　教授者は、練習１－１（教科書Ｐ204，205）を利用するなどして練習をし、学習者にこの文型を定着させる。

＊例の中には、次の例のようなおかしなものも入れて、理解の様子をみる。また、教授者が言ったことに学習者が応じる形も加えるとよい。
＊この練習は、学習者が文型に慣れた時点で打ち切って残りは宿題としてもよい。

例（先生：　寒いときは、ストーブをつけてください。
　　学生：　はい。
　（先生：　寒いときは、クーラーをつけてください。
　　学生：　え？

④「（元栓を開け）てから、（このつまみを回し）てください」の練習をする

次のア～ウの順で行うとよい。

ア　「元栓を開けてから、このつまみを回してください」を暗記して滑らかに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ　「元栓を開けてから、これ（このボタン）を押してください」「このつまみを戻して、元栓を閉めてください」などガス器具の手順を示し、文の意味の理解を確認した後、発話練習をする。

＊学習者のレベルに応じて、提示する文の数を加減する。

ウ　教授者の「～てから～てください」の文型を使った指示表現に応じて、学習者が実際にガス器具を操作する。

＊実物がなければ、ふりをさせて代わりとする。

⑤　③、④に倣って、「（ゆっくり回し）てください。そうすると（口火がつき）ます」の練習をする

＊練習２－１、２－２（教科書Ｐ205，206）を利用する。

⑥ ③、④に倣って、「（口火がつい）たら、（こうする）と（お湯が出）ます」の練習をする

⑦ 理解の確認の仕方を練習する

相手の言った言葉の一部を復唱することで、理解の確認をする。

次のように、実際に操作をしながら、確認の表現を練習するとよい。

例
先生：　（押し）てください。
学生：　（押す）んですね。
先生：　はい。
学生：　（押してみる）

「押す」のほかに「回す、開ける、閉じる、倒す、まっすぐにする」等も練習する。

先生：　（右に）回してください。
学生：　（右）ですね。
先生：　はい。

「右に」のほかに「ゆっくり、左に」等も練習する。

⑧ 「（消す）ときは、（今と反対をやれ）ばいいんです」の練習をする

「消すときは、今と反対をやればいいんです」「つけるときは、これを回せばいいんです」「火を強くするときは、これを上げればいいんです」など、ガス器具を操作しながら行う。

＊レベルｉの学習者は、これらの意義を理解できればよい。レベルｉ、ⅱの学習者の発話に沿って、器具を操作する練習を行う。

⑨ 〔会話－１〕をロールプレイする

教授者が店員、学習者が林夫人になって行う。

＊レベルｉの学習者にも、器具の操作を中心に行わせたい。

【総合】

① 実際にガス器具を扱いながら教授者が使い方の説明をする

学習者には次のやり取りのように相手の言うことを繰り返して確認したり、相手の言

うことがはっきり分からないとき確かめる方法を使わせて練習させる。

例
先生：　ええと、元栓を開けてから、このつまみを回してください。
学生：　これを開けてから、これを回すんですね。
先生：　はい、そうです。

＊「これ、それ、こう、そう」等を使わせて発話の負担を軽くする。

先生：　この元栓を開けてから、このつまみをゆっくり回してください。
学生：　こうしてから、ゆっくりですね。（必ず動作を伴わせて）
先生：　はい、そうです。

② 器具を実際に操作しながら会話練習をする

練習２－２（教科書Ｐ 206）を参考に身近な器具について行う。

＊このとき、それぞれの器具に関連する語彙や表現も併せて覚えさせたい。

〔会話－２〕ブレーカーが切れる

行動達成目標	
① 電気についての知識を基に家庭で電気を正しく安全に取り扱える。 ② ブレーカーが上がるなどしたとき、回りの人の指示に従って、適切に対処できる。	
知識	電気や電気器具の正しく安全な取り扱い方を理解する。
表現	電気がついているか、消えているか言える。 → （隣は）ついています（よ）。 消えてる（よ）。

● 指導の前に

電気は、便利で日常生活になくてはならないものである。しかし、電気や電気器具も日本と中国では違う点もある。帰国者の中には日本の電気器具などに不慣れな者もいるので、教授者は、学習者と電気をどのように扱うかについて、器具の使い方、安全器、たこ足配線、電気料金など身近な事柄を話題にして、話し合ってみたい。学習者が日本の電気の知識を得て、各家庭で電気を上手に安心して使えるようにしたい。

● 準備

電気の安全な取り扱いに関して、どういう点に気をつけなくてはいけないか、よく分かるように電力会社のパンフレットなどを集めておく。

● 授業

【1】導入

① 電気の使い方に関連した話合いを行う

電力会社などからもらってきたパンフレットを見せて、注意すべき点に関して、家庭ではどうしているかを、一人一人に聞いてみる。このとき、日本での電力会社との契約の仕組み、電気器具と電力消費量またはその料金、電気のトラブルを防ぐ方法、電気の上手な使い方など電気についての知識を教える。また、停電のときどうしたらいいか、ブレーカー（ヒューズボックス）はどこにあるか等知っているか聞いてみる。

＊レベルⅰの学習者は、中国語を使うなどして導入を行うとよい。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－2〕のテープを本文・中国語とも通して聞かせて、次のような質問をする。

例 ・停電ですか。

・どうして（停電でないことが）分かりましたか。

・どうして電気が消えましたか。

・（ブレーカーが切れないようにするには）どうすればいいですか。

② 〔会話－2〕の語彙、表現を確認する

特に、電気関係のものは、写真や絵を示しながら定着させる。

③ 「ついて(い)ます」「消えて(い)ます」の練習をする

次のア～ウの順で行うとよい。

ア 教室などの電気をつけたり、消したりしながら、「消えて(い)ます」「ついて(い)ます」の発話練習をする。

＊レベルⅲの学習者は、教授者の後について次のような発話練習をする。

消します → 消えました → 消えて(い)ます

つけます → つきました → ついて(い)ます

イ 「停電ですか」「隣はついていますよ」「消えてるよ。いいところなのに」を暗記するまで教授者の後について、リピート練習する。

ウ 次の会話をロールプレイする。

先生（母） ：（部屋の電気をわざと切って） あっ。

学生Ａ（林）：　停電ですか。

先生　（母）：　お隣はどうかしら？

学生Ａ（林）：　隣はついていますよ。

先生　（母）：　じゃ、ブレーカーが切れたのね。正道、テレビ消して。

学生Ｂ（正道）：　消えてるよ。いいところなのに。

先生　（母）：　スイッチを切るのよ。

＊レベルⅰの学習者は「ついています」「消えています」が言えればよい。
＊教授者が男性の場合、教授者は父親役をするなどして、おかしくならないようにする。

エ　次の例のように役割の設定を変えて、練習する。

例　男の友達同士の場合。

Ａ：　あっ。

Ｂ：　停電？

Ａ：　隣はどう？

Ｂ：　ついてるよ。

Ａ：　じゃ、ブレーカーだ。テレビ消して。

Ｂ：　消えてるよ。

Ａ：　スイッチを切るんだよ。

④　自動詞と他動詞の使い方の練習をする

練習１－１～４（教科書Ｐ208～210）を参考に、別に時間をとって行う。

＊レベルⅰの学習者はこの練習はやらない。
＊この練習は、中国語に無い自動詞と他動詞の形の違いを理解するもので、学習者の多くにとって苦手なものであり、レベルⅲの学習者でもすぐ覚えられるというものではない。あまり学習者に負担をかけないように、ここではこういうこともあるという紹介程度に練習しておく。ただし、教授者は、これ以降も長い目で指導するようにしたい。
＊レベルⅰの学習者にとってはこのような変換練習は苦しくて実りの少ない場合も多いので、自動詞と他動詞を特に結び付けて練習する必要はなく、ガラスが割れている窓を見ながら、「割れています」を練習して、また、別の機会に割れたコップを見せながら、「だれが割りましたか」「～さんが割りました」を練習するようにして、自動詞と他動詞を関連させることなく、個々に具体的に、教えていった方がよいと思われる。

この場合、網羅的に練習するのではなく、学習者が必要とするものだけを選んで教えることが大切である。レベルⅱ，ⅲの学習者に対しても以上の練習を積み重ねて、自動詞と他動詞の感覚が身についた上で、それらをまとめるかたちで、自動詞と他動詞を対にして整理するとよい。

ア　まず、練習１－１の表の他動詞を使って、「電気を消してください」「電気を消しました」など文を作り、繰り返し言わせて、滑らかに言えるようになるまで練習する。

＊必ずしも表の全部の動詞を練習する必要はない。学習者のレベルや何を必要としているかで選択して、数を限って練習する。

イ　アの動詞を使って、次のような場面を作って練習する。

例　A：　窓を開けてください。

B：　はい。（実際に開けるか。まねをする）

A：　Bさん。何をしましたか。

B：　窓を開けました。

ウ　練習１－１の表の自動詞を使って、「窓が（は）開いています」の文型で文が滑らかに言えるようになるまで、よく練習する。

エ　次のような絵を用いて、学習者に適当な言い方（自・他動詞、「～ている」等を用いて）で描写させる。

例　・窓が開いている絵

・窓が閉っている絵

・窓を開けている絵

・窓を閉めている絵

オ　練習１－４のようなやり取りで練習する。

＊この練習をするときは、「お湯が沸いている」「窓が開いている」「ドアが閉まっている」ことが分かる絵などを用意しておいて、それを見せながら、練習する。

〔会話－３〕カメラを買う（１）

行動達成目標 カメラ店で自分の希望に合ったカメラが買える。		
知識	カメラを購入する際、使用法、注意すべき点は、店員に聞けば説明してくれることを知る。	
表	①　カメラ店で自分がどんなカメラを買いたいのかが言える。	→　（簡単な）のがいいんですが。（子供でも使える）ような。
	②　カメラの使い方に関する店員の説明が理解できる。	→　（ここを押します）と、（フラッシュが出てき）ます。

現		（で、ちょっと待っていただく）と、（ここが赤くなり）ますから、（そうしたらシャッターを押し）てください。 （フラッシュ）は、（使わ）ないときは、（元の位置に戻しておい）てください。
	③ 確認が適当にできる。	→ （赤くなって）から（押す）んですね。

● 指導の前に

カメラは、人気のある商品のひとつである。日本へ来て、もうすでにカメラを買った学習者も多いと思うが、カメラは興味のある商品だけに、学習者が積極的に授業に参加することが期待できる。教授者は、それをのがさず、分からないことを学習者側から問いかけさせる指導などと結びつけたい。

● 準備

カメラ（できれば何種類か）を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① 動詞を可能表現にする練習をする

第7課会話6説明1及びその練習（教科書P197～199）を参考にして、動詞の可能形を復習する。

＊レベルｉの学習者は「使える」などこの会話で出てくるものに限る。余裕があるようなら、日常よく使う「行ける」「帰れる」など学習者がよく使うと思われるものを選んで練習する。「行く→行ける」といった変換練習は必ずしもする必要はなく、個々の可能動詞をひとつの独立した単語として覚えさせるとよい。

② 動詞をナイ形にする練習をする

練習2－1（教科書P 213）の準備として、動詞のナイ形を復習する。

ア　まず第一課〔会話－6〕練習1－1，2の動詞（教科書P47）を使って、「書くの？書かないの？」などとスムーズに言えるようになるまで、教授者の後について、リピート練習をする。

イ　親しい者同士のやり取りという前提で次のようなナイ形を用いた練習をする。

先生：　スーパーへ行く？

学生：　ううん、行かない。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－3〕のテープを聞かせて、次のような質問をする。

例　・林さんは　どこにいますか。

・何をしていますか。

・どんなカメラが欲しいですか。

・簡単なカメラが欲しいですか。

・フラッシュがついたカメラがほしいですか。

② 〔会話－3〕の語彙、表現の確認をする

カメラを利用して「撮れる」「押す」「戻す」「シャッター」「フラッシュ」「電池」等を導入する。

③ 自分の欲しいのは、どんなカメラかを告げる練習をする

ア　「簡単なのがいいんですが」「子供でも使えるような」を暗記して滑らかに言えるようになるまで、教授者の後についてリピート練習をする。

イ　練習1－1～3（教科書P 212，213）に沿って練習して、文型の定着を図る。

ウ　次のようなイの変化形の発話練習をする。

・小さいのがいいんですが。ハンドバッグに入るような。

・じょうぶなのがいいんですが。ぶつけても壊れないような。

・水に強いのがいいんですが。雨に濡れてもだいじょうぶなような。

＊レベルｉの学習者は「小さいの、いいです」「小さい、いいです」といった不完全な発話でも、ジェスチャーを加え通じればよい。

エ　次のようなロールプレイで練習する。

例　先生：　どんなカメラがよろしいでしょうか。

学生：　じょうぶなのがいいんですが。ぶつけても壊れないような。

＊「～ような」の部分はなくてもよい。

＊説明は聞き取れればよいのであるが、慣れるために自ら口に出して練習する。

＊レベルｉの学習者は、カメラを実際に手にして、説明する内容が分かればよい。

④　カメラの使い方の説明を聞く練習をする

ア　〔会話－3〕の表現に慣れるために教授者について店員の説明の部分をリピート練習をする。

イ　練習2－1（教科書P213，214）を使って、「～ないときは、～てください」の文型を練習する。

ウ　次のようなやり取りをして、説明の理解、あいづち、確認の表現を練習する。

例（先生：　使わないときは、キャップをしてください。
　　学生：　はい。（カメラにキャップをする）

（先生：　このボタンを押してから、巻いてください。
　　学生：　これを押してから、巻くんですね。

エ　教授者はカメラを手にして、使い方を〔会話－3〕の文型を使って説明して、理解する練習をする。

＊教授者の説明の中に分からない言葉が出てきたら、「～って何ですか」等の質問をさせて、説明の内容を聞き取ることを重点に練習する。

【3】表現練習

①「子供でも使える」の「～でも＋動詞の可能表現」の練習をする

ア　説明1（教科書P211，212）を読んで「子供でも使える（ような）」の〔会話－3〕での意味を理解させる。

＊ここでは詳しい理解を要求する必要はない。一度読んで理解できなくても次に進む。

イ　「どれでもいい」「だれでもいい」「いつでもいい」等、「疑問を表す語＋でもいい」の例を示して、次のようなやり取りの型で、意味、用法の確認をする。

例　種類の違うたばこを数個用意して学習者の一人に渡す。

先生：　～さん。たばこを一つ取ってください。

学生：　どれですか。

先生：　ああ、どれでもいいです。

ウ　イのやり取りに続けて、学習者に用件を依頼する役をさせ、教授者が依頼される役になって次のようなやり取りで、「これでもいい」「～さんでもいい」「あしたでもいい」等、「実際の物／人／日時＋でもいい」の例を示し、意味・用法の確認をする。

例　学生：　先生。すみません、日中辞典を貸してください。

先生：　はい。「ポケット日漢」でもいいですか。

学生：　はい。どれでもいいです。

エ　「子供でもいい」の意味を次のような例で理解させる。

例　教授者が、学習者に次のような質問をし、学習者に答えさせる。

- （通帳と印鑑を見せて子供のいる学生Aさんを指して）Aさんは、銀行で、10万円下ろします。Aさんのお子さんでもいいですか。
- 鉛筆を1本買いに行きます。Bさんのお子さんでもいいですか。

オ　エの質問の表現「子供でもいい」の部分を可能表現にして「子供でも下ろせる」「子供でも（買いに）行ける」等の表現で言い替え、練習する。

②「～でも＋動詞の可能表現」の文型練習をする

練習1－1，2（教科書P 122）を参考にして行う。

＊簡単な場面を示したりして行いたい。レベルⅠの学習者は聞き取り練習だけ行う。

〔会話－4〕カメラを買う（2）

行動達成目標 ①　カメラ店で商品を試しに操作するとき、その旨を断ることができる。 ②　カメラの使用法についての指示、説明が理解できる。 ③　自分が何をしているか口にして、相手の了承を得ながら、行動できる。			
知識	〔会話－3〕と同じ。		
表現	①　断ることができる。	→	ちょっと（やっ）てみていいですか。
	②　店員の指示が理解できる。	→	（ファインダーをのぞい）てみてください。 （動かなくなる）ところまで（ずっと巻い）てください。
	③　操作しながら、自分が何をしているか言える。	→	（ええと、フラッシュを出し）て、（赤くなるまで待っ）て……。 そして、（フラッシュが赤くなっ）たら、（シャッターを押す、）と。 で、（フラッシュを元の位置に戻し）て……。

● 指導の前に

この教科書では、これまでに様々な確認の方法を学習してきた。この会話では、自分が何をしているか口に出して、自分のやっていることがそれでいいのか相手に確認してもらうやり方を練習する。この確認方法は、物を買う場合だけでなく、学校や職場の備品の使い方を教わるときや、他人に物を借りるときにも使うことができる。こういうときに、無言で何かをすると、周りにいる者に不安感を持たせるものである。自分のしていることを相手に説明して、相手を安心させる意味からもこの確認方法は大切である。

● 準備

① コピー等、事務所内の機器（使うのに説明が必要なもの）が授業で使えるように許可を得ておく。

② 珍しい帽子、ペン、食べ物など学習者が興味を持つようなものを用意する。

● 授業

【1】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－4〕のテープを聞かせて、どんな場面かを質問する。

② 許可を願い出る言い方を練習する

相手の持ち物などを試しに操作などしたいときの表現を次のア～ウで練習する。

ア 「ちょっとやってみていいですか」を暗記して、滑らかに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ 「ちょっと食べてみて（も）いいですか」「ちょっと被(かぶ)ってみて（も）いいですか」「ちょっと書いてみて（も）いいですか」等動詞を替えて発話練習をする。

ウ 用意したいろいろな物を学習者に見せて、「ちょっと～てもいいですか」を使う状況を作り、次のようなやり取りの練習をする。

例 先生： （帽子を見せて、被(かぶ)ってみたりする）いいでしょう。
学生： いいですね。ちょっと被(かぶ)ってみていいですか。
先生： ええ、いいですよ。

＊レベルｉの学習者は手で帽子を被(かぶ)るまねをしながら、「いいですか」などと言えればよい。

③ 手順を口に出しながら、実際に器具を操作する練習をする

次のア～ウで行う。

ア　「フラッシュを出して、赤くなるまで待ってください」「ファインダーをのぞいてみてください」「フラッシュが赤くなったら、シャッターを押してください」など指示の文の発話練習をする。

イ　教授者は用意したカメラに合った指示を出し、次のようなロールプレイで練習する。

例　先生：　フラッシュを出して、赤くなるまで待ってください。

学生：　はい。フラッシュを出して、赤くなるまで待つ、（と）。

（学生は実際にカメラを持って操作する）

ウ　カメラ以外の物について、イの練習をする。

例　シャープペンシルの芯を交換する。

先生：　キャップを取って、芯を入れてください。

学生：　はい。キャップを取って芯を入れる、（と）。

（学生は実際にシャープペンシルに芯を入れる）

【2】応用

コピーの機械など、学習者が使い方を知らないような機械のところへ連れて行って、教授者が使い方を教える。

＊ここでは必ずしも〔会話－4〕で学習した方法を無理に使わせる必要はない。学習者がいろいろな確認の方法などを用いて、機械の使い方が正しく分かればよい。

【3】関連

①　分担して何かを行うときのやり取りを練習する

教室をみんなで掃除するなどの場面を設定して、自分が何をするかほかの人に告げて、それぞれの役割を自主的に行う。

例　学生A：　じゃ、私は　掃除機を持って来ます。

学生B：　私は　水をくんで来ます。

＊黙って何かを取りにいっても、ほかの人は分からないので、共同作業が効率的にできないことを話す。

②　自分が何かするときの断りの練習をする

皆でどこかへ出掛けた場面を設定して、他の人と離れてトイレへ行ったり、何かを買

いに行ったりするとき、一言その旨を告げる練習をする。

＊黙って行ったとき、生じる不都合を理解させてから、練習する。

〔会話－5〕カメラを買う（3）

行動達成目標		
	フィルムの取り替え方を教えてもらえる。	
知識	〔会話－3〕と同じ。	
表現	① フィルムの取り替え方が尋ねられる。	→ フィルムは、どうやって取り替えるんですか。
	② 確認ができる。	→ （ああ、）こうですね。 （フィルム）は　（普通）のですね。
	③ 適当なあいづちができる。	→ （ええ、）そうです。 （ああ、）そうですか。

● 準備

カメラとフィルム（練習用のものでよい）を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① フィルム等について話し合う

フィルムは自分で入れられるか、現像を頼みにいったことがあるか。中国ではフィルムは高いのか等フィルムに関係した質問をして、動機付けをする。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－5〕のテープを聞かせて、どんな場面かを質問する。

＊会話番号8の「で、もし何でしたら」は、レベルⅡの学習者から疑問が出ても詳しい説明はいらないだろう。むしろ、この表現を聞き流して、文の全体の意味を理解させたい。

② 林さんの発話部分を暗記して、スムーズに言えるようになるまで、リピート練習する

＊暗記を宿題としておくとよい。

③ 店員の部分を、教授者の後についてリピート練習する

④ 学習者が林さん、教授者が店員になって、ロールプレイをする

二、三回目から、次のように場面を少し変えて、教授者の部分を短くして練習する。

例　学生：　（新しいフィルムとカメラを持って）フィルムはどうやって取り替えるんですか。

先生：　それを引いて、ふたを開けてください。

学生：　（実際にカメラのふたを開けながら）ああ、こうですね。

先生：　フィルムをこう入れるんです。

学生：　はあ、そうですか。

先生：　はい。

学生：　フィルムは普通のですね。

先生：　ええ、そうです。もし何だったら、店で入れてくれます。

学生：　ああ、そうですか。それなら安心です。

＊レベルｉの学習者は、「フィルム、替えます。できません」等だけ伝え、あとは店員に替えてもらい。店員がフィルムを替える手順を見て、フィルムの替え方を知るような場面を考えたい。

＊教授者は説明するとき手に持ったカメラに応じた説明を与えるようにする。

＊教授者も学習者も教科書の本文通り言う必要はなく、教科書の文型を使って、性別・年令に応じた言い方をすればよい。

〔会話－６〕テープの消去防止法

行動達成目標 友人との会話で自分の体験した失敗を積極的に話題として提供し、コミュニケーションの場を作っていくことができる。		
知識	器具等の用法を尋ねたり、説明を受けたりしたとき、それらを理解する基礎的な知識を得る。	
表現	① 友人との会話で、自分が体験したことについて、話の切り出しができる。	→ （昨日）は　失敗しましたよ。
	② 体験したことを話しだすときに、まず、話題が何かを一言で提示する言い方を学ぶ。	→ （テープを）うっかりして(消し)ちゃったんです。

● 指導の前に

親しい者同士の会話で、「昨日はひどい目に会いましたよ」とか、「昨日は大変でしたよ」等と言って、話を切り出す場面がよくある。話している相手に一種の誘いをかけ、相手に「どうかしたのか」と言う興味を起こさせて、会話を進展させるものである。この種の積極的な、話題を提示し、コミュニケーションを自分から作っていく方法を教える。

● 準備

カセットテープを用意しておく。

● 授業

【1】導入

① 学習者同士失敗の経験を出し合う

教授者は、〔会話－6〕の場面を簡単に説明する。〔会話－6〕のテープの場面説明の部分だけを聞かせてもよい。その後で、学習者に、日本へ来て、何かこの会話場面に類した失敗をしたことはあるか、あればそれはどんな失敗かを質問し、自分の体験談として話してもらう。教授者は、この体験談の要約の仕方を示し、学習者はそれを言えるようにしておく。

＊レベルｉの学習者は中国語で言ってレベルが上の学習者に日本語で言ってもらったり、書いたりして、どういうことがあったのか伝え、なんとか会話に参加させたい。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－6〕のテープを聞かせて、どんな場面かを質問する。

＊実際にテープレコーダーとテープを使って確認するとよい。このとき「録音ボタン」「テープのツメ」等を確認しておく。

② 話を切り出し、話題の要点を伝える練習をする

次のア、イの順で行うとよい。

ア　「昨日は失敗しましたよ」「テープをうっかりして消しちゃったんです」を暗記して、スムーズに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ　会話番号1～3をロールプレイした後、練習1－1（教科書P 221）を参考にして、表現を一部変えて練習する。

＊レベルｉの学習者はこのやり取りが失敗の体験談だと分かり、たどたどしくても何か言えればよい。

例　A：　昨日は失敗しましたよ。

　　B：　どうしたんですか。

　　A：　お金をうっかりして落としちゃったんです。

　　B：　ああ、そうですか。

③　「～って何ですか」の表現の練習をする

「ツメって何ですか」のリピート練習をした後、次のような会話の型で練習する。

例　先生：　サンシャインビルへ行ったことありますか。

　　学生：　え、サンシャインビルって何ですか。

　　先生：　東京の池袋の、日本で一番高いビルですよ。

④　「～ておくと～（た）とき～んです」の文型の意味を理解する

説明3（教科書P221～223）を読んで意味を理解させ、練習3－1（教科書P 223）をする。

⑤　確認の表現を練習する

「じゃあ、～た方がいいですね」の文型は、相手の言っていることのポイントを要約して言い返すことで自分なりに理解したことを確認するものであるが、次のようにして練習する。

ア　「じゃあ、折っておいた方がいいですね」の意味を〔会話－6〕の中国語訳を見るなどして理解して、リピート練習をする。

イ　キューを与えて、発話練習をする。

例　「野菜／○○屋　高い／スーパー　安い」

　　→　「じゃあ、スーパーで買った方がいいですね」

　　「バス　遅い／電車　速い」

　　→　「じゃあ、電車でいった方がいいですね」

ウ　次のような会話で練習する。

例　（日曜日に出掛ける場合を想定して）

　　先生：　普段の日だとバスは本数も多くて便利だし、それに電車の方が時間がか

かるんだけど、日曜日はどうかなあ車が多いから、それにお祭りだし……。

学生：　じゃあ、電車で行った方がいいですね。

先生：　そうですね。その方がいいでしょう。

＊なるべく身近な話題を選んで練習する。

【3】応用

① 学生の体験談を応用会話として練習する

「導入」で発表してもらった体験談を練習した表現を利用して話す。

例　学生：　このまえは失敗しましたよ。

先生：　どうしたんですか。

学生：　駅前に自転車を置いてとられたんですよ。

先生：　チェーンキーをしておきましたか。

学生：　チェーンキーって何ですか。

先生：　くさりのかぎですよ。防犯登録はしてありましたか。

学生：　防犯登録って何ですか。

先生：　警察に自転車の番号を登録するんですよ。登録しておくと、見付かったとき、持ち主がすぐ分かるんですよ。

学生：　ああ、そうですか。